

反原発への いやがらせの歴史展

原発反対運動への 異常ないやがらせ

1986年4月にチェルノブイリ原発事故が起きました。その数年後日本でも、原発反対運動が大きく盛り上がったことがありました。1988年2月に伊方原発の出力調整試験の反対運動が空前の盛り上がりを見せ、1988年4月には日比谷公園で2万人の集会が成功しました。1992-3年にはあかつき丸によってフランスからのプルトニウム輸送が行われましたが、これに対しても、世界的な反対運動のネットワークが作られました。

この展覧会で明らかにしようとしている原発反対運動へのいやがらせは1980年代の終わり頃から見え隠れし、1993年ころがピークで、2000年頃まで続きました。あまりにも卑劣なやり方に全国の活動家たちが集まり、1994年から準備して1995年7月には日弁連に人権侵害救済の申し立てをしました。私はその申立人らの代理人でした。

この人権侵害の特徴は、原発反対運動に係わる個人に対して、大きな組織が結託して、執拗に継続されている人権侵害であるということです。また、個人の自宅や自宅周辺の写真を送りつけるなど、身近への危害をほめかす卑劣きまりないものでした。郵送されて来る文書の中には、明らかに違法に収集されたと思われるまったくの第三者宛

ごめんね
今夜も反原発の集まり
で 帰りが遅くなるの



お母さん さびしいよ
一緒にねんねしてよ……

いやがらせで送られてきたものは、一見すると反原発運動で使われたイラストと同じだが、運動の混乱を狙っている内容だ。

の信書や税金関係などの請求書、使用済みの大量のJR切符や運動内部で配布された文書、原子力推進機関の内部資料などが含まれていました。これらの意味するところは、この人権侵害の実行者たちは、目的のためには違法行為も辞さない、あるいは、自分たちは違法な行為をしても責任をとられない集団であるという印象を与え、言いしれぬ恐怖感をもたらすものでした。

今日に至っても、このような嫌がらせを行った犯人はわかりません。日弁連は、行為者が不明という理由で結論を出すことができませんでした。しかし、現時点で見れば、このような嫌がらせは、電力会社と公安機関、そしてキャンペーン活動のプロ集団が複雑に絡み合った組織による組織的な運動破壊であったと思われます。

今年の秋から、原発の再稼働、新增設への動きに拍車がかかるでしょう。これに対応して反対の活動も活発となることでしょう。そのとき、手紙や写真という伝統的な形とは変わるかもしれませんが、1990年頃と同じような目的で、ネットなどを使ったより巧妙な反対運動への攪乱工作が行われるのではないかと強い危惧を感じます。

この展覧会の目的は、このような活動を未然に防止するために、過去の嫌がらせの歴史を多くの市民に知っていただきたいということです。さらにこの反倫理的な犯罪的行為に荷担したおそらくは数百人に上る者の中から、過去の行為を認め、詳細を明らかにする者が名乗り出してくれることを願うところにあります。

私たちは、このような行為に手を染めた個人の責任を追及したいわけではありません。すでに法的には時効がかかっているでしょう。しかし、どのような機関が責任を問われるべきかを明確にしておくことが、今後同じような嫌がらせが起きないようにするため、何よりも重要であると考えます。

(展覧会実行委員会代表 海渡雄一)

主催●反原発へのいやがらせの歴史展実行委員会

問い合わせ 東京共同法律事務所 (電話: 03-3341-3133)

弁護士 海渡雄一、弁護士 中川 亮

8月10日(土)

午後1時 ~ 午後5時
(入場は午後4時半まで)

8月11日(日)

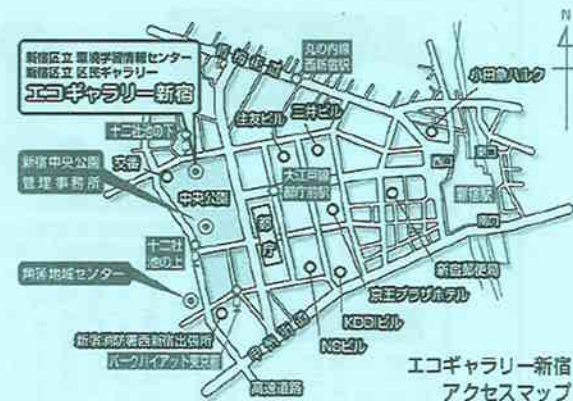
午前10時 ~ 午後4時
(入場は午後3時半まで)

新宿区立区民ギャラリー

東京都新宿区西新宿2-11-4
新宿中央公園内 エコギャラリー新宿1階

入 場 無 料

※両日も、午後2時から主催メンバー(海渡雄一・弁護士、西尾漢・原子力資料情報室共同代表、西村トシ子・元動燃職員(妻))による展示についての説明、懇談があります。



交通のご案内

- ・JR・小田急線・京王線新宿駅西口から徒歩約15分
- ・地下鉄丸ノ内線新宿駅2番出口から徒歩約10分
- ・地下鉄大江戸線都庁前駅A5出口から徒歩約5分
- ・新宿西口バスターミナル(17番乗り場)から乗車し、「十二社池の下」バス停下車徒歩約1分

現政権 再稼働に旋回

かつて、原発運動に携わっていた人たちに対して数々の嫌がらせが繰り返された。犯人は分かっていないが、弁護士や市民団体のメンバーが、中傷文書などの証拠品を集め、真相究明に向けた作業を続けている。安倍政権が原発再稼働に向けて旋回する中、「陰湿な嫌がらせが、再び横行しかねない」との危惧があるからだ。

(上田千秋)

反原発へ嫌がらせ 再発も懸念

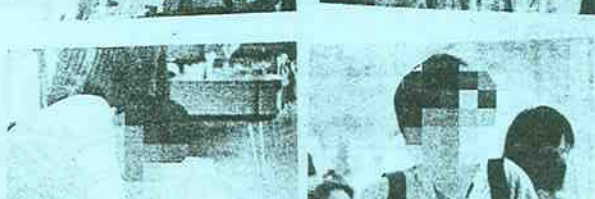
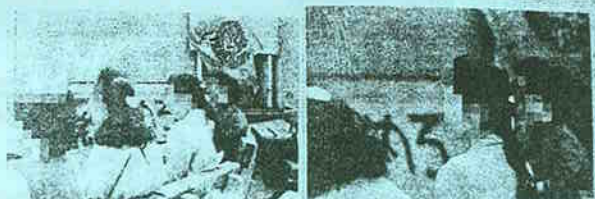
卑劣なりり口 卑劣なりり口

なを前に、海渡雄一弁護士手紙が届くのはまだましな土着を落とした。海渡氏は、高速増殖炉もんじゅや浜岡原発など数多くの原発訴訟に関わってきた。中手紙はがき類は、反原発運動を誹謗(ひぼう)中傷したり、事実無根の内容を記したりしているものも多かった。自宅の様子やメンバーの姿を隠し撮りした写真や昆虫の死骸などが送られたり、メンバーの名前をのりをつけて、子どもの名前や年齢を一緒に記した名簿が出回ったことまであった。海渡氏は「リストアップして何でも分かっているんだぞ」という響きの意味が伝わったという。非常に嫌な感情化したのは、1980年代後半だ。90年代にかけて数が増え、だんだんと手口も悪質化した。事務所やメンバーの自宅に、活動や中傷のしるしがあ



嫌がらせの文書を手「二度とこんなことが起きないようにしないと誓う」と訴える海渡雄一弁護士(左)と西尾漢共同代表(東京都新宿区)

92年3月に事務所、男性メンバー1人が死亡する火災があった。その後、カンパを求めた偽の文書が関係先に送られた。そこには、「損害賠償で1千万円必要」「場合によっては料金の一時閉鎖も」などがありもしないことが書かれていた。同案の設立者で、日本の反原発運動を引っ張ってきた高木仁三郎代表が2000年に亡くなった際には、故人を冒用してそのような文書が出回った。西尾漢共同代表は「事務所へ届いた郵便

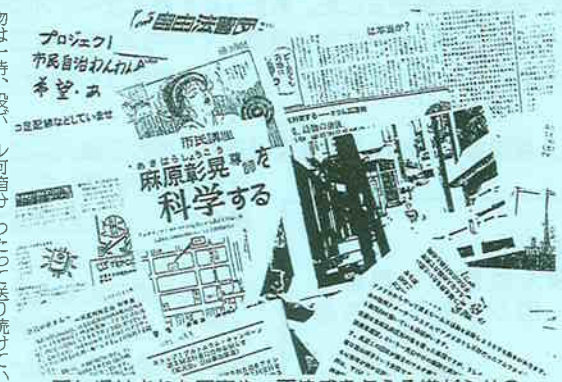


隠し撮り、郵便1日150通... 頭80年代在化

反原発集会の会場で、不審な男から没収したフィルムに写っていた写真。参加者の顔がはつきり分かるように撮影されていた(一部画像処理)

犯人不明 弁護士ら真相究明目指す

郵便物の消印は全国各地にわたる、中にはロンドンやドイツ・フランクフルトから送られたものもあった。大量の文書を同年にも



隠し撮りされた写真や、不快感を与える嫌がらせの文書類。1日150通届いた人も

背後に組織か 郵便物の消印は全国各地にわたる、中にはロンドンやドイツ・フランクフルトから送られたものもあった。大量の文書を同年にも

前後は、反原発運動が盛り上がった時期だった。86年4月のチェルノブイリ事故をきっかけに、関心を持つ人が一気に増加。92年3月に青森県六ヶ所村で核燃料サイクル施設が操業を始めた。93年10月には「フルト二ウムを積んだ輸送船「あかつき丸」が、使用済み核燃料の再処理を委託したフランスから日本に帰港。連日、激しい抗議行動が全国各地で行われていた。西尾氏は「反原発運動が、草の根にまで広がっては困る」との懸念が、嫌がらせをしていった例にはあったという。

毛メスケ

反原発の市民運動の中でも、反原発運動に対する嫌がらせは、陰湿を極めた。政府財源の一部は、強硬な権力が相手だった。権力の側は運動の広がりを懸念し、恐れ、それが、ひきょうな嫌がらせをするしかなかった本当の理由だと思ふ。

ネットて陰湿化 かつてのような露骨で組織的な嫌がらせはなくなったように見える。だが、経たすうちに、海渡氏は「原発を推進するために、常識では考えられないようなことまで」の写真を撮らせた。たまたま思案があるのかもしれない。今の時代の雰囲気は手元で、また同じことが起ると。海渡氏は「90年前の福島事故以降、90年前後には比へずともないほど、原発に反対する人が増えた。彼らに余計な不安感を与えないためにも、真相を説明しておく必要がある」